〔第三種郵便物認可〕　昭和十二年七月二十一日　仙臺新聞　〔水曜日〕　第四千九百八十號　〔一〕

秋子のこと

―六年前を思ひ浮べて―

鈴木光二

（一九三七・七月）

秋子は私の従妹である。その頃まだ親元から小學校に通つてゐた秋子は夏休みに入るとすぐ私の家へ泊りがけで來てゐた。或る日の夕方、私は夕涼みがてら秋子をつれて夜店を見に出たそして一匹の二十日鼠を買つて來た、赤く塗つた小さな籠のなかで二十日鼠は頻りに車廻しの藝當？をやりながら秋子を喜ばせてゐた元來おつくうがりな私もこの可愛いゝ二十日鼠のやめスッカリ乘氣になり金網の大きいやつを買つて來たり、米粒などを入れてやつたりしてゐたが、どうしたことか三日目の朝ポックリ死んでしまつた。金網の片隅に淋しく横たえた小さな遺骸を見て『マア可哀さうに……』と秋子は死んだ二十日鼠を手のひらに載せながらいまにも泣き出しさうな顏つきでこれをソッと小さな杉の木の下に埋めてやつてゐるのを僕はじつと傍で見てゐた――それから早や六年も經つてゐる、二十日鼠を埋めた杉の木はスク〳〵とのびて今では私の丈よりも高い、私はこの杉の木を見るたびに、その當時のオカッパ頭の秋子を思ひ出してならない――秋子は氣だての優しい子であつた――

友情の負債

吉野信夫

（下）

實際、あのカバンを斜にかけた郵便配達の姿は、毎日のやうに僕の家の門前に、いつものにかその日その日の生活遂行に迫が味氣ない空虛さに襲はれる事だらう。幸福のマスク〳〵とのびて今では私の丈よりも高い、私はこの杉の木を見るたびに、その當時のオカッパ頭の秋子を思ひ出してならない――秋子は氣だての優しい子であつた――

危急の秋

佐藤清長

○天体の崩れ來にける氣を含み、國の危急の時は至れり

○うつせみの人の別れも泌々と、惜しむ間はなき軍人かも　―（招集出征）―

○國非常の聲はしばしば聞き止めて、至れる今日を起てや起て起て

男心

前田豊秋

憎まれ者の悲しさはなまじ憂き世に拗ねもする

身をも心も　耐えて來た一寸先は　火のくるま

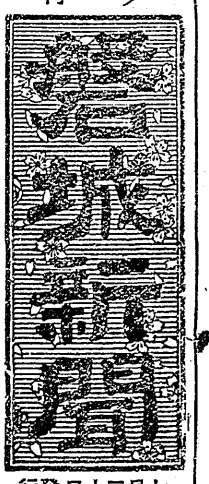
男ごゝろは　熱鐵の打てば火華の　意氣を知れ

天氣豫報

小名濱測候所發表

今晩も明日も南の風晴後曇

夕刊



七月二十日發行

定價一ヶ月金拾五錢（前金）　郵税共　金五拾錢　一ヶ年金六圓拾五錢　一ヶ月金五拾錢　一行廣告料　一回金拾錢　一行廣告料　一回金拾錢

編輯兼發行人　鈴木何

發行所　仙臺市新町十番地　電話一〇五番　仙臺新聞合資會社

（日曜祭日翌日休刊）

東京振替　一〇八五六五番

今朝吉画

小料理の味も美味ぞ

仲田町

一度來て見よ―

―主婦（おかみ）翠月

胃腸を害ね或は下痢をしたり或は三日も四日も便通がなくて頭痛を覺える御方はキ、メの早い

靈効散胃腸藥

を御試し下さい

胃腸病。心臟病。腦。痔。適應藥

三年五年と思ふ慢性胃腸病が全快した人が澤山あります御望の方には見本藥一日分を差上げますから御遠慮なく御來局下さい。

平市古鍛冶町縣社ノ下

處方調劑所　**阿康藥局**

定價一圓　五十錢　壹圓　電話四四番　八日分　廿日分　振替口座東京三〇〇六五番

御子様方には飲み易い小兒靈効散があります。

新車のお知らせ

斷然!!!　乘心地良い!!!

三七年型フオード

入車いたしました。

是非！御試乘の程を！

市内四丁目

スヾキタクシー

電二一七番

生花教授

生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。

平町四丁目和泉屋旅舘

須藤なつの

和洋……家具

テーブル……椅子

建具

其他裝飾品一般……

御用命は迅速に御努め致します。

諸官衙　各學校　御用達

㊢片寄製作店

平市五丁目四

製作販賣

片寄小彌太

電話四八四番

十五、六歳以上の見習徒弟募集

御希望の方は至急申込下さい。

公債、株式、賣買

一般証券業務

平市三町目

電話一七七番

友部證券店

營業所　水戸市泉町二丁目　電話二四〇・六〇一番

助川町天王町　電話六九番

大子町榮町　電話二九番

持株の御相談に應じます。

磐城の御みやげ品

名物　**靈峰羊羹**　金十錢

姉妹品　柿羊羹。のり羊羹。

沼ノ内辨天羊羹。

御旅のお出入には好個のお土産品です。

小賣御希望の方お申越下さい。

製造發賣元　小川郷驛前　**平屋賣店**

銘木（床ノ間材）

天井板、ベニヤ板買ふなら

確かに御期待に添ふ良品廉價の

万織田材木商店へ

福島縣平市　電話平四六〇番

營建築木材一式……

業銘木・ベニヤ板……

種秋田産杉四分板……

目建具材・便利瓦……

一度せる勉強振りを、せひ一度お試を乞ふ

中古各種レール鐵管

礦山用機械器具類

製鐵原料問屋

二大製鐵會社特約店

海軍工廠御用達

銅鐵機械　KS　**井尻七三郎商店**

福島縣平市鍛冶町十一　電話五二二番

御買上品精々御安く納品致します

御拂下品は精々御高値に買受ます

新盆の戒名入提灯

例年の通り御安く御注文に應じます。

弊店の提灯が……體裁が良くて値段の最も安い事は自分で一切の製造仕上げをする事と場所が不便の爲で有ります。

平市才槌小路

金子提灯店

時代の要求皆様の足!!

尼子タクシーへも

豆タクが入りました。

御玄關から玄關へ……迅速簡便

是非御利用を……。

市内……三〇錢　市外……四割引

流線型セダン、大型貸切バス宮行！直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。

平市二丁目、

尼子自動車商會

電話六四〇番

土用丑の日大賣出し

榮養の素

味覺の醍醐味

丑の二十日には定評ある『魚榮』の『ウナギ』を多少に不拘是非御用命御願致します。

大浦燒うなぎ丼

うなぎ　**魚榮**

（出前迅速）　電話四二四番

眼鏡

メガネは
正確に
廉價
最新式各國製レンズ

根本時計店

平市二丁目　電話六〇七

無明に燃ゆる愛國心
暑中休暇の歸省を見合せ
磐城訓盲院生徒の献金作業

一億同胞に脈打つ烈々の國防意識は最近北支事變の勃發と共に一層拍車されて各方面に於ける涙ぐましい献金は連日色々な非常時美談を生んでゐるが、之に奮起した磐城訓盲院の生徒は來る二十五日から暑中休暇を利用し全校二十數名の生徒中歸省せぬ上級生が協力して、毎日午前八時から四時迄一般の來院を求め、鍼按マッサージ、揉み療治共半額の二十錢にて依頼の求めに應じ其の收入を献金する事に決定、人々を感激せしめてゐる

内郷第三生 三十二圓餘を献金

内郷第三小學校生徒一同は小遣錢を節約して金三十二圓二十一錢を醵出、十九日平署を通じて東日國防費へと福島聯隊區司令部に寄託、係官を感激せしめた

。。。。。。百合子さん献金　市内南町雜貨商佐々木百合子(一九)さんは裁縫で蓄わた金一圓を十九日平通信部に寄託

躍進小名濱
明十三年度後は 年產四百萬圓突破
海岸埋立工事完成

總工費二百七十萬圓を投じた商港傍に五千坪の海岸埋立工事を了した小名濱町では目下一ケ年三百萬圓取引の町營魚市場の建築を急いでゐるが九月早々完成する

この埋立地は魚市場を筆頭に製氷工場、船具工場等の建築豫定地ともなつて居り平製氷會社では目下岸壁寄りに第二工場の建設を進め近く竣功の運びに至つてゐる等早くも濱一帶に躍進的空氣が漂つてゐる

明十三年度、第一期工事完成後は五千噸級の大汽船も悠々岸壁に横づけされ、本縣代表の同港も町營魚市場、平小鐵等とタイアップして年產水揚四百萬圓を豫想、今後の飛躍を刮目されてゐる

教育者產組講習會

來月二日より三日間須賀川町岩瀬農學校に第四回教育者產業組合講習會が開かれるが受講資格は中等學校、小學校並青年學校教職員、希望者は來る二十五日迄產業組合長を經由して申込まれたいと

。。。。。。河川工事中間檢査　内務省河川工事の中間檢査を二村技手により左記日割で行ふ

二十日蛭田川、矢田川、藤原川　二十一日夏井川 新川　二十二日仁井田川

磐東銀行株主總會

濱通り唯一の本店銀行たる植田町磐東銀行の第八十三回株主總會は既報の如く昨十九日午前十時から同倉庫樓上に開き專務取締役金成欽次氏から營業報告があつたが今期配當は利益金多きも大藏省の意思に基き後期繰越を多くし前回通り二分四厘に決定した、利益金處分内譯既報の如く尚取締役金成欽次、岡田保次郎、馬上誠一、兒玉萬平四氏滿期に付改選の結果馬上、岡田兩氏は健康上の理由で辭退、金成欽次、兒玉萬平の兩氏だけ再選された

小學教員選拔野球

體協石城支部では來る二十九日郡下小學校教員の選拔軟式野球大會を開く、球場は湯本町營グラウンド

。。。。。第二訓導異動　平第二校佐竹ヒデ訓導は病氣退職、後任として河沼郡勝常小學校菅波ミノル訓導が二十日着任

。。。。。消防視察　安達郡油井村消防幹部十名は十九日平消防組視察

宵越しのビール的に 氣の拔けた選擧
土地賃貸調査委員 豫期通り山崎、諸橋、松崎三氏當選か

時代錯誤的 棄權率

平稅務署管内一市三十二町村の土地賃貸價格調査委員選擧は今二十日午前九時より各市町村役場に於て執行、平市役所でも定刻より菅沼市長臨時代理選擧長の下に豬狩庄平、岡田千藏兩氏立會ひ投票を開始したが最近未曾有の混戰を演じた市議選擧の直後に於ける定數候補同數の選擧であり殊に土地所有者に限られた非大衆的のものであるだけ活氣無き事夥しく、選擧界の人氣男たる流石の飯田氏すら八時半に出頭して敢て一番乘りを爭ふ迄にハリキリを見せぬ程凡そ氣の拔けた事さながら宵越しのビールの樣な氣分の裡に午後三時閉場したが有權者千六百名中棄權は頗る多數に上るらしく

山崎濟三　諸橋久太郎　松崎松治

の三氏が豫期の當選を見る樣である

『飲食物に注意せよ』
あすからの暑休に
磐女で注意書配布

明二十一日から暑中休暇に入る磐中、高女では二十日終了式を擧行した、磐女の暑休中の注意事項左の如し

一、常に本校生徒たるの心得を持し行動を愼しむべし、海水浴場其他人込みの場所に於ては特に注意すべし

一、規律ある生活をなし飲食物に注意し健康の增進に努むべし

一、傳染病の豫防に注意し附近に右患者發生の場合は直に學校に屆出づべし

一、各自日課を定め復習につとめ成績不良の學科は特に注意すべし

一、讀物は修養に資すべきものを選擇すべし

一、旅行及夜間外出の際は父兄又は嚴格なる同行者を要す

一、召集日は汽車通學生が八月五日、徒步通學生が八月二十二日午前八時

ステツキで毆る

赤井村窪田無職磯上義雄(三〇)は十八日午後六時湯本町三函瀬戸事務所飯場を訪れ居合せた三原辰次(四七)と煙草のことから口論となりステツキで三原の頭腹部を毆つて平署の取調べを受けてゐる

映畫の夕

殺虫水アース本舖では今二十日第三小學校、明廿一日市役所に於て午後七時半から謝恩映畫の夕を開催すると

安中生五十名
豐間で臨海學校

中等學校はあすから暑中休暇に入る、海へ!山へ!若人の心は自然の魅力に誘はれて動き出す——安積中等校一、二年生五十名は教諭五名引率の下に例年の如く明二十一日豐間海岸に乘り込み、二十九日迄九日間臨海學校を實施することゝなつた

縣下中等學校 体育大會
愈よ會場決る

全縣下中學生の期待と興味をこゝに集めて縣下男子中等學校体育大會の『スポーツ繪卷』は愈よあと二日に迫つたので各校共最後の練習に汗みどろになつてゐるがその會場は

△野球—二十三日から三日間福商　△庭球—二十三日安達中　△柔、劍道—二十三日相中　△籠排球—二十三日田中　△陸上競技、器械体操—二十五日喜中

と決定した、尚縣下女子中等學校の陸上競技、庭球、籠、排球戰は二十二日安積高女で開かれるので磐女軍は二十一日午前八時三十分正木校長以下教諭引率で勇躍出發する、勝てよ我等が選手!

燈籠流しや櫓踊り
波立藥師宵祭り
平驛で臨時列車運轉

——地方の夏祭りも次から次と進められて久の濱波立藥師の宵祭りは愈よ明二十一日、地元團体の主催で燈籠流し、櫓踊り等の餘興に例年の通り遠近各方面から押しかける善男善女で賑ふ夜空に描く花火の美はしさことだらう、平驛では既報の如くこの二日間に亘つて臨時列車、ガソリンカーを運轉藥師社の傍に停車せしめて參詣人の便を圖る

尚神谷村虛空藏尊は昨十九日催されたが餘興の種々に賑ひを呈した

小楠公と其母上映

平市國防婦人會、女子靑年團主催の映畫『小楠公とその母』は明後二十二日より市内世界館に於て開催するがプログラム次の如し

日支事變ニュース　少年航空兵　小楠公とその母

泥的二人男

市内久保町職工田邊春雄(二七)好間村大舘伊藤吉三(二七)の兩名は十三日市内古鍛冶町日出湯前にあつた荒木福松所有の自轉車(二十五圓)を盜んだ外自轉車專門に數臺を搔つ拂つて十九日平署に檢擧

苦心の調達もあつた 供託金二百圓也戾る
▷▷▷一部落選者に日步の苦勞解消▷▷▷

市會議員總選擧立候補の爲供託書添付屆出の處供託原因消滅候に付該書下渡候條印章携行の上受領相成度此段及通知候也

のた達しが昨十九日菅沼臨時市長代理から當落合計五十名の手許へ屆いた。二百圓と云へば無い人に取つて頗る莫大な金であり、殊に某々數名の如きは遁れ市會議員になり度いばつかりに金融業者からの血の出るやうなカネによつて急場を突破したのさへあり、而も之等の顏ぶれにはこの大犧牲を拂つて尙は蹉跌として猶はぬ落選者もある事とし、落ちた悲哀と日步の苦みの二重苦に喘ぐ慘澹たるこの方面の該當者は、待つてたと許りに市役所に出頭し供託原因消滅證明書を貰つて供託局に馳けつけると云つた鹽梅で今二十日中には大部分の下り戾しが濟むらしい形勢にある

七夕繪葉書
廿五日から發賣

福島民報平支局長野澤武藏氏は鄕土平市の新名物『七夕祭』を各地へ宣傳紹介し又見物客のお土產品として極彩色の素晴らしく美麗な七夕繪はがきを作製し二十五日から愈々賣り出すことになつた、これこそほんとうの愛鄕書狀で一般市民が暑中伺ひや七夕祭案内狀に利用し先進地仙臺市を凌ぐやうになつた平市の七夕祭を宣傳するやう各方面へ呼びかけてゐる、實價一組八枚二十錢、大量注文は割引の相談に應ずる由

頑張り泥棒悄氣る
けふ平區から懲役四年

贓品を突きつけられても『斷じて盜まぬ……』と否認し續けた頑張り泥棒——高久村大字山口無職吉田正元(三六)は二十日平區中島裁判長から求刑五年に對し四年の判決を受けて流石の正公も急に悄氣てしまつた

。。。。。。教育部會總集會　石城教育部會總會は來月五日平第一校で開く

。。。。。。高野裁判長來平　高野福島地方裁判所長は十九日來平、裁判所を初巡視、二十日白河に向つた

。。。。。。三森技手出席　石城產馬畜產組合三森技手は二十二日福島市縣農會に開かれる家畜衞生關係技術協議會に出席

溫泉心中

市内鍛冶町吉田爲吉(三六)は十九日夜群馬縣新鹿澤溫泉で埼玉縣平潟町カフエー女給渡邊琴路(二二)と心中を圖り、男女共生死の程を氣遣はれてゐる

投槍
投書歡迎

。。。。市政の明朗化。。。。

◇第三小學校の沼田少將北支事變講演會に行つた、六時頃は未だ聽衆も見えなかつたので大丈夫いゝ席が取れるものとそれから小一時間過ぎた定刻七時頃行つた處もう超滿員で足の踏み場もない

◇自轉車を踏み台にして窓から飛び込むものもあれば、窓にブラ下つてゐるものもある等正に非常時。私は幸ひ玄關前のスピカーを通じて少將の力强い叫びを聽くことが出來たが、あれ程盛況を極めた講演會を私は見たことがない

◇そして少將は云つた『和合的解決を望んでゐる』私はこれを北支那の明朗化と云ひたい、皆さんもこゝしばらくは大いにこの明朗化と云ふ言葉を遣つて下さい……』と

◇私はこの『明朗化』を先づ平市會に望んでゐる、正副議長のやゝこしい問題も、すべからくこの『明朗化』をスローガンとして進められて行くやうに——私はこれを切望して三十名の新選良に訴へたい　(愛市生投)

。。。。七夕祭について。。。。

◇本年の七夕祭は市側記念のこととて盛大に行はれることと思ひますが、殘念なことには平地方又縣内だけしか平の七夕祭を知る者がゐないことは誠に惜しい氣がする

◇何等かの方法でこれをニュースにでも撮れば各映畫會で上映すること故全國に『平の七夕祭』を知らしむることが出來ると思ふが如何でせう　(一歸省生)

電話至急讓受度
平市胡摩澤六八町
(隔離病舍附近)
石躍(イシオドリ)

諸判定應需
東京市本鄕區湯島四丁目
高島易斷總本部　神誠館

舊六月十四日　水曜　己酉　先勝　滿　軫宿
新七月二十一日

二十一日(小名濱測候所發表)
滿潮　前一、三〇　後五、〇〇
干潮　前九、三〇　後九、二〇

▲一白　發行に宜しからず事每に澁滯勝なるを覺悟▲二黑　運氣旺盛にて更に勵むれば幸慶を招くべし▲三碧　吉運の如く覺ゆれども平凡に歸す病厄注意▲四綠　才能を充分に發揮すべき日大に得る所あり▲五黃　待ちに待ちたる雨の漸く催せし如き吉運日▲六白　計畫する所不利に傾き大困難を生ずべき日▲七赤　轉ばぬ先の用心は今つゝ起業開店移轉普請注意▲八白　野望を去り實直に本げふに勉むれば大發展す▲九紫　小事たりとも忽にせず油斷なければとがなし

暑中御伺ひ
丑の日大賣出し
毎度御引立を蒙り難有奉謝ます
吉例により二十五日(土用丑)大勉强大賣出し致します
大蒲燒
うなぎ丼
(出前迅速)
松本樓
電話一一三番

吉例土用丑
牛肉大賣出し
二十五日土用丑
滋養豐富な牛肉を是非
平市田町
石川亭
電話四十三番

眼科一般
眼鏡檢定
重田眼科
平驛前通り元福島貯蓄銀行跡
醫師　重田景治
平市田町一番地

松村醫院
院長　松村鐵郎
平市南町　電一〇七

廣告

第八十參期決算公告

昭和拾貳年六月參拾日現在

貸借對照表

資產(借方)	金額
現金預け金勘定	一三五、三三一、一七〇
現金	三五、三三一、一七〇
預ケ金	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
有價證券勘定	九六、九二〇、〇〇〇
國債	三二、九〇四、〇〇〇
株式(内手許有高)(三一、六一八、〇〇〇)	六五、〇一六、〇〇〇
割引手形勘定	二〇、〇〇四、六五〇
商業手形	一一、九六〇、八六〇
荷付爲替手形	八、〇四三、七九〇
貸付金勘定	六七八、一五〇、〇一〇
手形貸付	四二四、二二一、七〇〇
證書貸付	一六五、五六九、一三〇
當座貸越	八八、三五九、一八〇
貸付有價證券	四、八五〇、〇〇〇
他店貸	四、二九九、三五〇
動產不動產勘定	三六、九三七、〇八〇
營業用土地建物什器	一六、六六〇、一八〇
所有動產不動產	二〇、二七六、九〇〇
假拂金	七、四九二、九七〇
株主勘定	三五二、五〇〇、〇〇〇
拂込未濟資本金	三五二、五〇〇、〇〇〇
合計	一、三三六、五〇五、三三〇

負債(貸方)	金額
預金勘定	七三六、二三三、三八〇
當座預金	一三六、四八〇、三五〇
特別當座預金	一九、六九八、四三〇
通知預金	六〇、六九一、四二〇
定期預金	三三九、三三二、一七〇
他店借	二四、五一九、〇七〇
雜勘定	九、九七二、四六〇
未拂配當金	三四〇、六五〇
未拂利息其他	六、一六四、一三〇
未經過割引料	一、三三二、一〇〇
其他	
預金利子諸稅	四五六、五二〇
行員身元保證金	二、八七七、九六〇
株主勘定	五五七、八二一、三三〇
資本金	五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
法定準備金	四一、七〇〇、〇〇〇
建築積立金	五、〇〇〇、〇〇〇
退職給與基金	四、三五〇、〇〇〇
當期利益金	一二、三六一、三三〇
前期繰越(内退職給與基金戾入)	(六、七六三、六五〇)(二五〇、〇〇〇)
合計	一、三三六、五〇五、三三〇

一金壹萬壹千貳百六拾壹圓參拾貳錢　當期利益金

一金壹千參百圓也　諸積立金

一金壹千七百七拾圓也(年二分四厘の割)　株主配當金

一金八千百九拾壹圓參拾貳錢　後期繰越金

昭和拾貳年七月拾九日
福島縣植田町
株式會社磐東銀行

取締役頭取　江尻博孝
專務取締役　金成欽次
取締役　金成通
取締役　岡山保治郎
取締役　馬上誠一
取締役　兒玉萬平
支配人　金成金三
監查役　古川傳一
監查役　藤田淺之助
監查役　久保木榮助